

令和5年度1回 栗東市立図書館協議会 議事録

- 開催日時 令和5年7月29日(土) 10:00~12:00
- 開催場所 栗東市立図書館 小会議室
- 出席者 國松完二、平子博之、三好勉、角井浩美、井上和子、園田純子、宗本和子、大屋邦代、辻村章子
- 事務局 図書館長、館長補佐、係長
- 欠席者 1人
- 傍聴者 0人

概要

1、開会

市民憲章唱和

会長挨拶

2、協議事項

- ① 令和4年度事業報告・評価について
- ② 令和5年度事業予定について
- ③ その他

3、閉会

1、開会

(会長挨拶)

この3年間は、コロナの感染拡大防止のため、図書館の様々なサービスが制約されてきました。最近は大いぶ元に戻りつつありますが、特に小さい子どもさんをお持ちのご家庭では、まだまだ人の集まる施設を敬遠されているという話も聞きます。サービスをどうコロナ前に戻していくのか、自然に戻る部分もあるでしょうが、工夫も必要になるでしょう。

一昨年の統計では、滋賀県の人口一人あたりの貸出冊数が、全国一位になりました。他府県に比べて休館期間が非常に短かったことも影響しているかと思えます。ただ、利用としては少なくなっており、それをどう戻していくのかを考えていく必要もあります。

協議会としてもアドバイスをしていければと思います。皆さんの活発なご意見をいただきたいと思えます。よろしくお願いいたします。

2、協議事項

① 令和4年度事業報告・評価について

(事務局)「令和4年度栗東市立図書館活動報告」及び「令和4年度栗東市立図書館基本的運営方針に定める目標値に対する評価一覧(案)」について説明

(委員) 滋賀県が人口あたりの貸出冊数で日本一になったということですが、その要因として、これが良かったということはあるでしょうか。

(会長) 8年くらい前までも全国一位だったのですが、その時の要因は、ほぼすべての自治体に図書館が設置されていたこと、サービスの重点を貸出に置いたこと、児童サービス・全域サービスに全県的に取り組んでいたこと、資格をもった職員の比率が高く、専門家として工夫しながらサービスを行っていたことがあったと思います。それから、大きな要因として、資料費が多いこともありました。そのころは、栗東の資料費も、3千万円、現在の倍くらいの金額でした。

その後、財政が厳しくなるに従い、東京に次いで2位という状態になりましたが、一昨年度は、コロナの対応の仕方が相当違いました。都市部が長い期間休館したのに対し、滋賀県は、どの市もできるだけ休館を短くしようと取り組んだ結果、利用が比較的早く回復基調になりました。ただ、今後を考えると、都市部以上に本を買う予算が激減しており、非常に厳しいと思います。滋賀県内では、どこの自治体でも、このことが大きな課題となっています。

個人的な意見になりますが、自治体のトップの図書館に対するコミットメントの違いが、今、非常に大きく影響していると思います。守山は、市長が図書館に力を入れて、図書館についての発言もされている。栗東は市長が変わられたところですが、何らかの形で、図書館について声を発してもらえるといいのかなと思います。

(委員) 自分は、県立図書館によく子どもを連れて行ったのですが、図書館だけでなく、美術館や茶室もある環境が良かった。「本を読みに行く」というのではなく、子どもを連れてちょっと寄って、その中に図書館がある、という感覚でした。

その意味では、栗東の図書館も、すぐ近くに自然観察の森などもあり、場所は良いと思うのですが、残念ながら交通の便が悪くなくて、よそから来にくいという問題があります。

(委員) やはり中学生や小学生がもっと利用する図書館であってほしいなと思います。私の学校では、図書館の利用が少ない。学校の図書室を利用し、そこからさらに発展して地元の図書館にも行ってみたい、という流れができるといいなと思います。学校で、もっと生徒が行きやすい図書室にすることが、地元の図書館に足を向けることにもつながっていくのかなと考えていました。

(委員) 栗東市民が他市の図書館を利用する数が増えているということですので、その分、栗東図書館の利用が減っているのかなと感じるのですが、他館の利用については、利用されている年代などの統計は出ていないのですか。

(事務局) 年代までの統計は、出ていません。

(委員) 南草津駅前に草津の図書館があって、そこには新快速が停まるというような、利用のしやすさという問題があるのかなと思っています。

(事務局) 子ども連れの方が南草津に出かけて行って、お買い物ついでに図書館に立ち寄るような話は、よく聞きます。栗東にも駅前に西館があるのですが、他地域からの来訪という面を見ると、非常に弱い状況です。

(委員) 私は、子どもたちに本を読んでほしいという思いを強く持っています。今、孫に接する中で、絵本から文字の本に移る段階の難しさも感じてはいますが、子どもはやはり、養育者がいかに本を大事にしているか、読み聞かせをしたかといったことに影響されると思います。

保護者に対して本を読むことが大事だという啓発をしていくことが必要だと思うのですが、例えば健診の時などに啓発を行うのはどうでしょうか。すぐには結果が出ないかもしれませんが、本を大事にする保護者を増やすことが、いずれは子どもたちの読書につながっていくんじゃないかと思います。

(事務局) 現在は、図書館内や児童館で、本は発達に有用ですというようなニュアンスの話を含めた講座をしています。

また、移動図書館で幼稚園へ伺うことで、子どもが本を借りて帰る、子どもが本を喜んでいる様子を保護者が目にする、図書館に行ってみる、という流れも生まれています。

ご提案いただいた健診のタイミングでの啓発は、以前から課題となっておりまして、健診会場と図書館は比較的近くでもありますので、健診から図書館に誘導するような流れを何とか作れないか、考えているところです。

(委員) 移動図書館では、子どもたちは貸出カードを作るだけでも本当に喜びます。それをきっかけに、保護者によっては、図書館に行ってみようかなという気持ちになってくださいますし、そうなったらいいなと思いながら取り組みをしています。

保護者自身が本に親しみを思っておられないこともありますので、子どもと一緒に本を読むことが、こんな面白い絵本があるんだとか、こんな風に子どもは絵本を喜ぶんだということを、体感してもらうことにつながっていると思います。

幼稚園の取り組みとして、人権啓発のおたよりで絵本の紹介をしたときに、感想をお聞かせください、他にもこんな良い本があるよと教えてください、と一緒にメモを渡したのですが、半数以上の方が返して下さって、こんな絵本もあるんだと逆に学ばせてもらいました。今は、図書館のアクションに対して園や学校もちょっと工夫して、みんなで種まきをしているところで、結果は、徐々に出てくるのかなと思っています。

(委員) 自分の子どものころを考えると、身近に図書館はありませんでしたが、父が本好きで、家の中に必ず本があって、本を手取る機会が多かった。それで、自分も本好きになりました。皆さんがおっしゃるように、保護者にまず本を好きになってもらって、子どもたちにつなげていくというのは、理想的な姿だと思います。

会社で若い母親たちと話すと、子どもの夏休みの宿題で一番嫌なのが読書感想文だと言います。感想文を書かなければならないから本を読むというのはどうなのかなと思いますし、宿題的に本を読むのではなく、本を好きになってもらうにはどうしたらいいのかというのは、難しい問題だと思います。

(委員) 評価についてですが、目標数値に達していないということで「2」がついているのですが、厳しすぎるんじゃないのかな、表現を変えられたらいいのになと感じました。

(会長) 図書館だけでなく行政全般で、評価は基本的には、数値評価になっています。他の図書館で、

サービス項目全てについて評価をしているところは、項目によっては質の評価を使っていることともありますが、評価は最終的に公開されるものなので、どうしても、比較判断がしやすい数値になります。ですので、目標値には達していないけれど評価が厳しすぎるのではないかというところは、「外部の意見」欄でどれだけフォローしていけるか、ということになるかと思います。

(会長) この評価はいつごろ公表されますか。

(事務局) いつという明確なものはありませんが、昨年度の評価ですので、あまり遅いのも、というところですか。

(会長) 確かに、昨年度の評価なので、早い方が良いかと思います。外部の意見として協議会の意見も入るので、できれば来年度予算に上手く反映してくれるといいなと思います。

(委員) 評価のことですが、民間と行政の感覚の違いがあるんじゃないかなと感じています。私たちの感覚からすると、来館された方、本を読んだ方がどれだけ満足して帰られたか、どんな気持ちで帰られたかということの方が大事なのではないかと思います。

そして、我々にはできない部分を行政に考えてほしい。例えば、先ほどの交通の便が悪い話です。図書館だけでなく、栗東駅に行くバスの便も悪いし、そのために、さきからも生かしていないのではないかと思います。

びわ湖ホールに、県外の人をだいぶ招待しましたが、舞台が良いことだけでなく、景色が良いことに喜んでくれました。その「景色の良さ」のような、施設の本業とは違った面での良さも生かしながら、我々にできること、広い目で見て行政に手を打ってもらいたいことを、一緒に考えていけるといいなと思います。

(委員) 先日、テレビで見たのですが、丸の内で無料バスを走らせて、非常に成果を上げているそうです。高齢になって免許を手放すと、その途端に非常に不便になり、出かけることが難しくなります。病院、市役所、郵便局、図書館、そういった場所を巡る巡回バスが無料で市内を走っていれば、高齢者は利用するのではないかな、という思いがあります。

図書館の職員はとても親切ですし、ありがたい存在だと思います。先日も、小さい子どもさんに、明るく、ポジティブな声掛けをされているのを見かけました。こういう雰囲気なら、来られた方は、ちょっと満足度をあげて帰られるのではないかと思いますし、そこは努力されていると思います。

無料巡回バスのようなことを、交通弱者に対する施策として行って、図書館をそのルートに入れてほしいと思っています。

(委員) 富山では、無料バスを出したことで、高齢者が外に出るようになり、医療費が減ったと聞きます。これは、図書館だけではできないでしょうけれど、図書館を含めた栗東のまちづくりということを考える中で、図書館にも来てもらえるように、と考えていくところかと思います。

図書館に来たあとも、例えば守山はちょっとお茶だけ飲んで帰る、ということもできる。栗東は、施設が古いし場所もないので、同じようなことは難しいでしょうが、どうしたらちょっとマシになるかということは、考えられるのではないかと思います。

(会長) 市内循環バスは、自治体でどれだけ経費負担ができるか、というところがあります。栗東も以前は無料券を配っていましたが、なくなっています。

今は、図書館の前を通るようなくりちゃんバスのルート設定はありますか。

(事務局) 平日は、少し離れてはいますが、東部住宅までは来ています。ただ、土日の便がありません。

バスの担当者と話すと、大変苦勞しているようで、皆さんの要望が本当にそれぞれなので、考え抜いてルート設定をしても、なかなか利用されないのが現状のようです。これからは、くりちゃんタクシーのような個々の要望に合わせられる形に移行していくのかなと感じています。

(委員) くりちゃんバスは民間のバスとは違うので、営業第一ではないと思っています。営業第一ではないから、行先も草津駅でなく栗東駅でもいいんじゃないかと思えますし、その考え方をどうしていくか、ということじゃないでしょうか。

(委員) 毎回お願いしているのですが、小さい子どもを連れてきたとき、プラスアルファで楽しめるものがあるといいなと思います。遊具を置くのが無理であれば、例えば、玄関前のタイルのところに、ペンキで〇〇〇と書くだけでも、子どもたちは喜んで遊びます。お茶を飲む場所も、外にテーブルなどを置くといいと思っているのですが、防犯上の問題などがあるとは聞きます。本当は、もっと博物館との間の土地を活用して、プラスアルファがあるといいなと思っています。

先ほど話に出た満足度に関しては、最近、よく図書館に来るのですが、司書の方は本当に丁寧ですし、無料でこれだけの本も借りられますので、本当にありがたいと思っています。ですが、葉山の地域の人たちは、それがわかっている、守山に行ってしまうことが多いです。守山ならば自転車で行けるので、先ほどから話に出ている交通の便の問題が、やはりあると思います。

学校の話ですが、以前、草津市内の中学校で学校司書をしていたとき、昼休みになると、生徒がものすごく図書館に来ていました。そこで、ここの図書館にない本は、草津の図書館に行ったらあるよと言うと、じゃあ行く、とつながっていたので、学校の図書室をきちんとすることは、すごく良いことだと思っています。ぜひそういうことを考えていただけるとありがたいです。

(委員) 私の中学校では、学校司書が充実に向けて頑張ってくださっているのですが、教員と一緒に活動できていないのが大変申し訳ない、というのが現状です。学校図書館を充実させていくことが市立図書館の利用にもつながっていくというのは、自分自身も思っているところですので、何とかそこに向かっていきたいなと思います。

中学校は、今、朝の会で本を読むなどの活動もしています。そのような、子どもたちが本に親しむための活動も、地道に続けていきたいと思っています。

(会長) 滋賀県は、学校司書の配置については非常に遅れています。最近、司書を常時配置する自治体も出てきましたが、自治体間で格差があります。やはり図書室が毎日開いていると、利用のされ方が違います。

栗東は今、学校司書は何人ですか。

(事務局) 12校を2人で担当しています。

(委員) 評価としてはデジタル化しないといけないから、こんなふうに厳しい状態になってしまっていますが、先ほどから話に出ている満足度が見えたらいいのになと思います。それから、コロナ禍の規制が

あった間は、図書館も静かになっていましたが、最近は、やはり人が増えているような気がしています。先日も、夏休みに入っているからか、親子連れがたくさんいて、自分も幸せな気持ちになりました。

おはなし会をしているのですが、4月から規制をなくして、来てくれたらシールを貼るカードも復活させました。そのカードを持っておはなし会に来てくれるリピーターも現れ、ぼちぼち元の状況に戻っていったのではないかなと、焦らないで地道にやっていきたいと思っています。

(会長) 満足度調査は、アンケート調査を定期的実施しないとなかなか測れません。今、県内だと県立図書館がアンケートを行っており「思っているような資料が利用できたか」というようなことを測っています。

栗東市の計画は今年始まったところですが、評価一覧として満足度を加えるのであれば、アンケートをどこかで実施することが必要かと思います。アンケートにも、利用者を書いてもらう方式があれば、職員が利用者にインタビューする形もあります。もし定期的にとっているアンケートがあるならば、それに項目を加えるような形だとやりやすいかと思います。

(委員) 今ならば、家に帰ったあと、スマホで回答してもらうようなやり方もあるのかなと思います。

(事務局) 過去に何度か他課のアンケートの配布・回収を依頼されたことがあります。図書館は回収率が高いと感謝されます。職員がお願いしながら手渡すことで、みなさん回答してくださるので、協力していただける実績を持っているのは間違いないかと思います。

(委員) 市の広報に図書館のページをもらって、来館された方の「図書館に来たらこんないいことがあったよ」というようなインタビューを載せるのはどうでしょうか。そんな風に、広報りっとうを活用して市民に知らせるようなことはできませんか。

(事務局) 毎年、10月ころに図書館の特集ページをいただいています。今年も10月号にいただいているページがあって、今、準備をしているところです。

(会長) 評価一覧の最終とりまとめですが、出していただいた個別のご意見に加えて、私と図書館で、協議会としての案を作成して、皆さんに確認していただくという進め方でいかがでしょうか。

[了承]

② 令和5年度事業予定について

(事務局) 「令和5年度事業予定」について説明

(委員) 電気代が上がっていますが、図書館だけではなく、公共施設に関して、照明をLEDにしていこうかなことはないのでしょうか。

(事務局) 学校は、補助金事業で順番にLED化されています。図書館は、そういった補助金がないので、LEDに変えていきたいと思っはいますが、予算的に難しいところがあります。

(委員) 市役所などでも、よく使う一階から、など、少しずつ進めていけばいいのかなと思っています。

(事務局) 市役所では、壊れたところからLEDに変えていっているのが現状です。活用できる補助金な

ども探しながら、何とか進めていきたいと思っています。

(委員) 削減される電気代でできるのではないかと思うのですが。

(事務局) 何とか目指していきたいと思います。

(委員) 以前、移動図書館に名前をつけられたということをお聞きしたように思いますが。

(事務局) 名前は「みどり号」というもので、中央公民館が運行していた時代から代々「みどり号」なのですが、その名前を、本を運んでいく車にマグネットで貼って、子どもたちに少しでも「来た！」と思ってもらえるようにしています、というようなお話を、社会教育委員の会でさせていただいたかと思います。

(委員) ただ「バスが来た」でなくて、子どもたちの関心をひくような、子どもたちに楽しく思ってもらえるような、そういった取り組みが非常に良いと思いました。

(事務局) 追加で一点、図書館まつりについて、ご説明させてください。

図書館まつりは、従来、リサイクルブックフェアがメインとなっていましたが、これをリニューアルし、「本と珈琲のへや」として、観光協会さんにコーヒー販売をお願いし、ソファ席などを作る、その同じ部屋にリサイクルブックを置いて、コーヒーや本を楽しんでもらう、という形にいたします。皆さまもぜひ、お越しください。

(委員) 日程はもう決まっていますか。

(事務局) 11月19日、日曜日を予定しております。

(事務局) コーヒーの売れ具合によっては、次の企画にもつなげられるかと思いますが、ぜひお願いいたします。

ほかにも、外にベンチを置いたり、市役所のロビーにある甲冑を借りて、当日かぶることもできるという企画もあります。いろいろ試行錯誤していくつもりですので、こんなこともやれるのでは、というようなご意見もいただけたらと思います。

(会長) 草津図書館が今年開館40周年で、栗東も3年後に迫っています。その機会に、博物館との間のスペースに増築するようなことを、働きかけてはどうですか。建て直しは無理かと思いますが、建物がもう手狭になっているのは間違いないと思いますから。

(事務局) 芝生の広場は博物館の管理スペースで、かなり大事にされているので難しいかと思いますが、遊歩道の横に空いたスペースがあります。昔は、屋外読書コーナーとして、そのスペースにテーブルを出したりもしていました。そのあたりに増築できないかなと、課内で図面を見ているようなところですよ。

(委員) 博物館の管理スペースであっても、図書館・博物館で共同で使えるようなことを考えませんか、一緒になって何か作りませんかという形はどうでしょうか。

(事務局) 行政はどうしても担当の課が変わったり人が変わったりするので、なかなか難しいところがあります。その変化があるのでマンネリにならないというのは良いところではあるのですが、長いスパンで話ができていくという面が、どうしてもあります。

(委員) 図書館が「自分たちはこう思っています」と言うだけでなく「協議会でこんな提案があつて」

というような話をしてもらおうなど、もっと協議会を利用してもらえたらと思います。

(会長)「お金と銀行のはなし」は子どもの金融教育の一環ですか。

(事務局) 滋賀銀行に雑誌スポンサーのお願いに行ったときに、スポンサーはできないけれど、こういった講座なら、とおっしゃっていただきました。滋賀銀行さんの方で、これから学校などにも出向きたいと思ってらっしゃるようで、その一環として、という経緯でした。今回は3年生以上という募集だったので、銀行の仕事のあたりの話は少し難しかったかとは思いますが、お金の話は楽しく聞いてくれたかと思います。

(会長) 新しい事業もあるので、委員の皆さんも見守っていただけたらと思います。

③ その他

(事務局)「レファレンス記録」について説明

(事務局) 先日、委員さんより、子ども向け行事について、どういうことをしているのか見たいとご意見をいただきました。見学の希望があれば受け付けますので、お声をおかけください。

3、閉会

(会長)

今回が、このメンバーでの最後の会議ということになります。この2年間、図書館の運営にご協力いただきまして、ありがとうございました。